

2023年度 学校法人 三幸学園 辻学園栄養専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、栄養分野の学校として「栄養を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、栄養分野として「栄養を通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 年度重点施策振り返り

コロナ禍からの緩和措置が終了し、通常授業の実施を試みたが、本校に入学するまでの経験などにより、個々の対応が必要な学生が確認された。メンタルヘルスカケアが必要な施策が急務と感じ、下記内容を施策した。

(1)メンタルヘルスをケアした教育施策

- ① 精神疾患等を抱える学生、コロナ禍で集団コミュニケーションを取れない学生が、本校で心の負担にならないように配慮した学校運営の対応
- ② カウンセリングルーム対応以外にも、ホームルームを利用したマインドセット時間の推進。
- ③ クラス運営の安定を重点課題とし、ペア担任制を導入。生徒が相談しやすい環境を整えた。
- ④ 入学当初実施するスタートアッププログラムにて、卒業までのイメージ、共に成長、共に学ぶ仲間であることを確認しあう。

(2)通常教育、集団学習への施策

- ① 学校行事の通常実施。
- ② 対面授業とオンラインによる課題提出。担任による未提出者へのフォロー。
- ③ 教科会の継続したシステム強化(多様化する生徒への理解。教科間の情報連携)

(3)学生対応における教員の一体化

学生が栄養士としての知識技術のみならず、社会人として求められるマナー(表情、挨拶、身だしなみ、言葉遣い、態度)取得の強化を目指した。コロナ禍の影響が感じられることも多いが、家庭環境など様々なことが起因して、個々へのケアが必要な場合も面談などを通して早期に対応した。教職員教育については、前記理解を求めると共に継続実施する。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学園としての理念・学校目標・育成人材像は明確であり、生徒・保護者への周知は、毎年4月のスタートアッププログラム及び保護者会等を通して行われている。2023年度保護者会は対面実施も検討したが、保護者の参加時間の難しさも鑑み、オンデマンドにて実施した。学校と保護者との連携は担任対応にて実施できているが、教育理念を体感させる機会の実施が引き続き課題である。

② 今後の改善方策

ホームルームや日々の指導の中で、専門学校は「社会人育成の場」であることを理解させる。また、学園全体としてクラスの学びの在り方を学習するプログラム(クラススタンダード)を実施することで、さらに学園理念の浸透を図る。担任は、入学後や進級後等の早い時期において面談を通して、生徒の抱える課題を把握し、サポートしつつ、自ら克服できるような機会を設けていく。また、保護者へ担任から連絡を取り、生徒の将来に向けて協力関係の構築し、生徒育成をより強固にすることを図るものとする。

③ 特記事項

教育理念から育成人材像をより体系化するべく、三幸学園のビジョンをふまえ、辻学園栄養専門学校におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定している。また、育成人材方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、全教職員及び生徒への浸透を実施している。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

学校運営、学校経営という視点、より効率的に、また偏りのない見地から、学校運営できるような組織作りを引き続き行うこと。特に、メンバー構成からも後進人材育成を引き続き重要事項として位置づけしている。業務の効率化が喫緊の課題である中、即戦力となる人材採用を進める。その為にも情報処理速度と勤怠管理のバランスが重要となっている。

② 今後の改善方策

学校運営という視点を育成していくためにも、様々な校務を担当していくこと。それにより、運営するための視座を養い、今後の人材育成につながるものと考え施策する。
中途採用した教員でも、社会経験が乏しい場合も見受けるため、研修などを重ね業務推進力向上を図る。

③ 特記事項

業務が多様化、肥大化する時代、求められる人材育成を組織全体業務として捉え実施。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

ICT化を進める中、教員のみならず高校時分にデジタル端末に触れた事が無い学生も見受け、その対応が必要。

課外研修は京都にて実施。普段の環境から離れ、チームで動くことや、限られた時間の中で結果を出すことなど、社会人としての必要なことを体験する機会となった。2年次、集団給食を体験できる校外実習授業を通常実施した。また、業界連携をさらに深め、先端的な知識、技能、その環境整備が課題に感じる。

② 今後の改善方策

授業課題でアプリを使用することが前提であるため、操作方法のレクチャーを授業が開始される前の登校日等、早い段階で実施。校外実習に関しては、計画的に給食会社様と連携、受け入れ態勢の準備早期化に務める。研修などを通じて、先端的な知識、技能に関して習得できる機会を設ける。

③ 特記事項

継続してイオンリテール株式会社様との産学連携した商品開発を行った。お弁当、総菜、スイーツと幅広く開発に関わり、物価高騰の中、消費者目線、コストを勉強する機会を得ることができ、教育的効果を高めることができた。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

平常の学校運営を実施した一年であった。数人のチーム、多人数の集団で行動することもある中、それらを苦手とする生徒も多く見受けた。ペア担任制を導入にして、教員育成視点と休退学防止を図った。

卒業後の職業イメージについては、校外実習、学内授業を通して伝え、生徒自身のキャリアプラン育成の観点からも重点課題として実施する。

② 今後の改善方策

退学率低減に向けて、コミュニケーション能力向上をホームルーム・行事など、正規授業に偏らない機会からも得ることができるようにする。就職率向上、離職率低下を図り、担任、就職担当者と連携して、その学生にとって良き就職になるようにケアしていく。

③ 特記事項

2023年度退学率 5.2% 18 /347 (2022年度 7.2% 25/349)

2023年度就職率 99.3% 143/144 (2022年度 99.3% 134/135)

*就職希望者としての数値

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

進路・就職の希望調査を早期に、また時期を考えながら調査を定期的実施する事により、本人の希望に沿った対応ができています。また、学生個人の相談および対応は、2024年度から、利用のハードルを下げるため「コミュニケーションサポートルーム」と名称を変更して、継続運営、保護者との連携は担任を通じて行うも、高専連携については今後の課題である。

② 今後の改善方策

通信制課程高校卒業生が増加していく中、入学初期に以前の在学情報提供を受ける機会を検討、高専連携を試みる。まずは姉妹校から始めている。卒業後の追い掛け、情報については同窓会ネットワーク(SANKO LINK/SNS)を利用していく。

③ 特記事項

卒業後の連絡ツールとして SANKO LINK(SNS)を開設している。管理栄養士試験対策講座など各種発信もしているが、卒業後の就業状況確認に留まる。離職した場合、復職希望がある場合などのツールとして機能拡張できるか、今後に向けて整備していきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

校内施設の経年劣化が見受けられる頻度が高くなり、修繕を計画的に実施している。ただ、修繕に留まる状況であり、現場設備と本校設備の平準化が今後の課題である。

② 今後の改善方策

施設設備の計画的な修理とそれに伴う予算確保、授業等に影響が出ないように引き続き整備する。現場設備については、校外実習などの機会を利用して、本校に活かせるものがあるか検討を重ねる。また、海外研修については社会情勢を考慮しながら、実施する。

③ 特記事項

社会のニーズに合った学生の輩出を考える場合、現場での働き方、その際の調理機器と本校の機器にズレが無いかは定期的に確認することが必要と考える。良き学生輩出の為にも、積極的に検討していきたい。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集時、どのようなところでどのような仕事をしているかを話し、卒業後のギャップが無いようにする。また、栄養士資格に関する学びのみならず、年間行事など、様々な学外での取り組みや学びについて事前説明を行い、理解を得るように努める。

② 今後の改善方策

募集活動時、年間行事など、その時期における学校生活の過ごし方を伝え、集団行動が難しい学生に対し、サポート出来得る対応についても事前説明を行い、心理的ハードルを下げることに努める。

③ 特記事項

自身の学力の特徴を把握させ、また本校も把握するために、入学前に基礎学力テストを実施している。また、入学後にもハイパーQU テストを実施、学生状況管理に努めている。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

コンプライアンスの遵守、またその意義を理解する機会を継続的に設ける

② 今後の改善方策

定期的に全教職員にコンプライアンスに対する啓蒙を図る。

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

今年度、大阪市北区食育祭りへ参画し、食育を中心とした催しを行った。今後、地域貢献として何ができるか
勤怠状況の兼ね合いと検討しながら実施していく。

② 今後の改善方策

地域貢献として公開講座の実施には至っていない。同窓会を通じて、プロの方へのリカレント教育機会を設ける予定である。

③ 特記事項

特になし